

作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量 （徳島県）

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和5年産水稻の作付面積から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた作付面積（子実用）は9,750ha（前年産に比べ160ha減少）となった。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は9,480ha（前年産に比べ160ha減少）となった。

2 作柄概況

（1）徳島県及び作柄表示地帯別

徳島県の10a当たり収量は469kg（前年産に比べ11kg減少）となり、作況指数は99の「平年並み」となった。

作柄表示地帯別では、10a当たり収量は北部で479kg（前年産に比べ5kg減少）、南部で441kg（同30kg減少）となり、作況指数は北部で101の「平年並み」、南部で95の「やや不良」となった。

（2）早期栽培

4月下旬及び5月下旬から6月上旬の曇雨天の影響により分けつが抑制され、穂数は「少ない」となった。穂数が少なくなったことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「やや多い」となり、全もみ数は「やや少ない」となった。6月中旬以降はおおむね天候に恵まれたことから生育が回復し、登熟は「やや良」となったものの、初期生育の遅れから穂数が少なかったことの影響は大きく10a当たり収量は450kg（前年産に比べ23kg減少）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は97の「やや不良」となった。

（3）普通栽培

田植え以降の天候に恵まれたため、穂数は「平年並み」となり、1穂当たりもみ数は「平年並み」となったことから、全もみ数は「平年並み」となった。

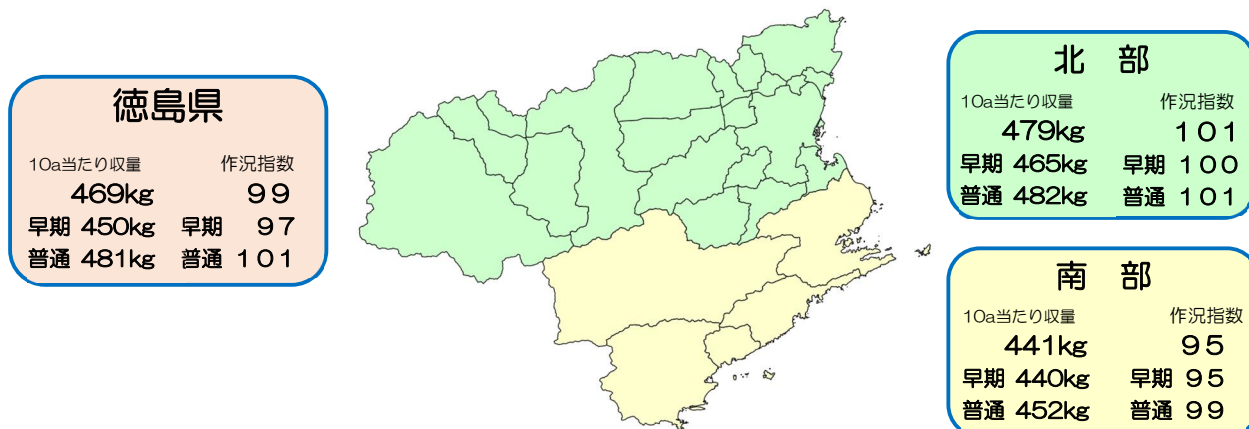
8月の台風第6号及び第7号による影響があったものの、その後の気温及び日照時間におおむね恵まれたことから、登熟は「平年並み」となり、10a当たり収量は481kg（前年産に比べ4kg減少）、作況指数は101の「平年並み」となった。

3 収穫量

収穫量（子実用）は、4万5,700t（前年産に比べ1,900t減少）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、4万4,500t（前年産に比べ1,800t減少）となった。

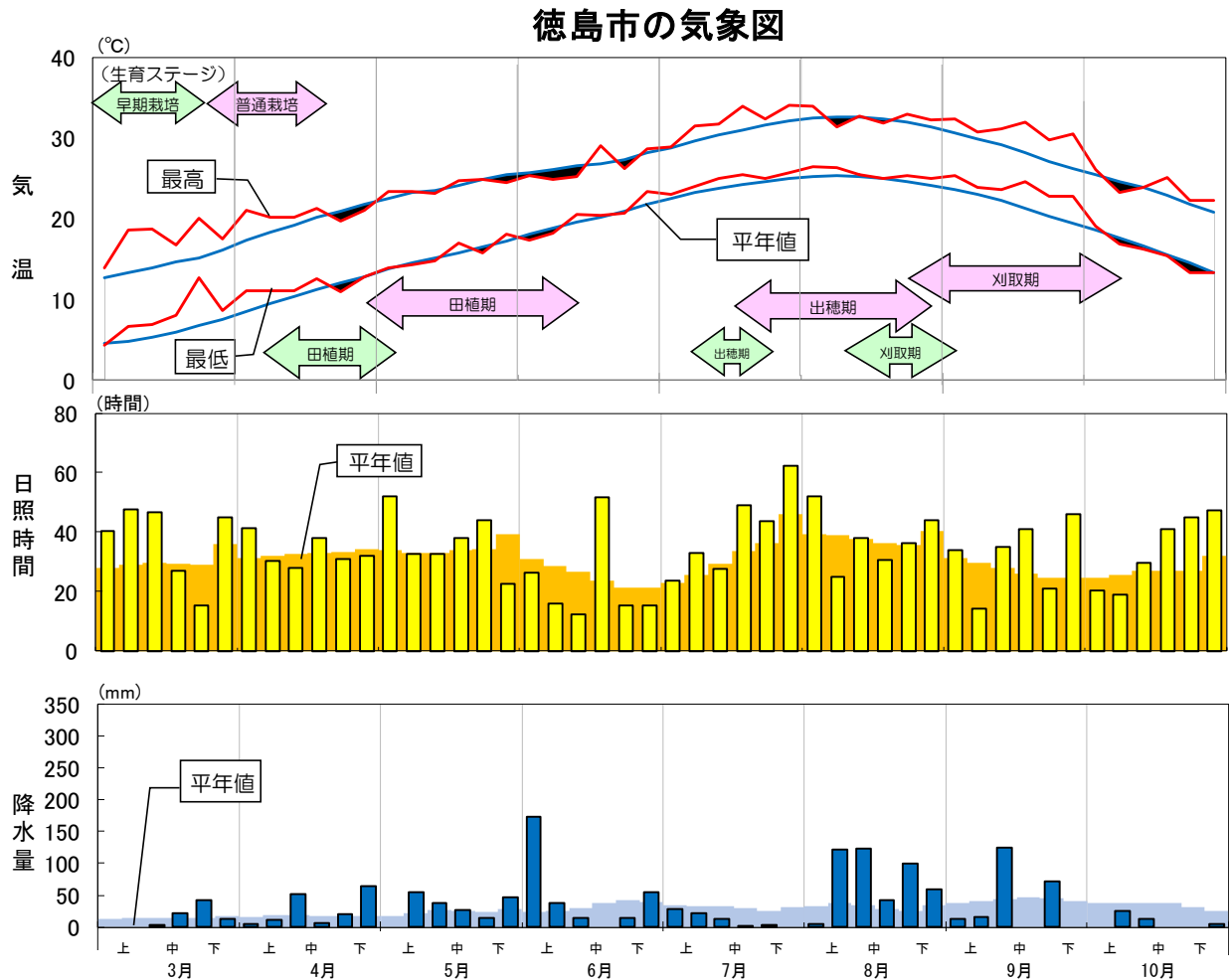
図 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



◎累年統計表

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
徳 島 県 平成30年産	11,400	470	53,600	11,200	52,600	99
令和元	11,300	464	52,400	11,000	51,000	98
2	11,000	476	52,400	10,700	50,900	100
3	10,300	465	47,900	9,980	46,400	98
4	9,910	480	47,600	9,640	46,300	102
5	9,750	469	45,700	9,480	44,500	99
早期栽培 平成30年産	4,400	466	20,500	...	...	101
令和元	4,340	456	19,800	...	...	98
2	4,260	453	19,300	...	...	98
3	3,930	455	17,900	...	...	98
4	3,780	473	17,900	...	...	102
5	3,750	450	16,900	...	...	97
普通栽培 平成30年産	7,000	474	33,200	...	...	99
令和元	6,940	470	32,600	...	...	98
2	6,710	492	33,000	...	...	102
3	6,400	472	30,200	...	...	98
4	6,120	485	29,700	...	...	101
5	6,010	481	28,900	...	...	101

◎半旬別気象図



資料：気象庁『アメダスデータ』

本資料は、「作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（中国地域・四国地域）」の補足資料です。

お問合せ先

中国四国農政局 徳島県拠点 統計チーム 電 話：088-625-6990